

2022年4月20日 全8頁

Indicators Update

2022年3月貿易統計

半導体不足などにより輸出の伸び悩みが継続

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2022年3月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.7%と13カ月連続で増加したものの、コンセンサス（同+17.3%）を下回った。輸入金額はエネルギー価格の高騰などを背景に同+31.2%と大幅増が続いている。これを受け、貿易収支は▲4,124億円（季節調整値では▲8,998億円）となった。2022年1-3月期の実質GDP成長率における外需寄与度は、新型コロナウイルスワクチン輸入などの増加によりマイナスに転じている。
- 3月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+0.8%と、2カ月連続で小幅に増加した。米国向け（同+14.7%）やEU向け（同+20.8%）が急増した一方、アジア向け（同▲5.7%）は減少に転じた。
- 先行きの輸出数量は足踏みが継続するとみている。中国では新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が続き、欧米では高インフレやウクライナ危機に対する懸念が強まっている。いずれの地域も不安材料を抱えており、日本からの輸出が伸びにくい状況が続くだろう。ウクライナ危機については、ロシアへの輸出の減少よりも、ロシアへの依存度が高い重要品目の輸入が減少し、国内の基幹産業のサプライチェーンに間接的な影響が及ぶ可能性を注視すべきだろう。

【貿易金額】 ワクチン輸入などを受け1-3月期の外需寄与度はマイナスの見込み

2022年3月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.7%と13カ月連続で増加したものの、コンセンサス(同+17.3%)を下回った(図表1)。欧米向けの自動車輸出金額が前年比で減少しており、前年同月に比べてサプライチェーンの逼迫度が上がっている姿が示された。季節調整値では前月比+1.7%と2カ月ぶりに増加したが、輸出価格、輸出数量ともに足元の増加ペースは鈍い(図表2左)。とりわけ輸出数量は円安が進む中でも伸び悩みが続いており、半導体不足などの影響が依然として強く残っている印象だ。

輸入金額は前年比+31.2%と大幅増が続いている。品目別では、高騰している原油及び粗油などのエネルギー品目が押し上げた。輸入金額を季節調整値で見ると、前月比▲0.5%と3カ月ぶりに減少した。輸入金額の変動を数量・価格に要因分解すると、輸入価格(大和総研による季節調整値)は同+2.0%となった一方、輸入数量(同)は▲2.4%となった(図表2右)。原油及び粗油の輸入量が減少したほか、国内で新型コロナウイルスワクチンの3回目接種が進んだことでワクチン調達の動きが落ち着き、医薬品の増加ペースが鈍化した。

貿易収支は▲4,124億円と8カ月連続の赤字となった。季節調整値で見ると▲8,998億円と、前月から赤字幅が縮小した。また2022年1-3月期(季節調整値)は▲2兆7,586億円と、2021年10-12月期(同、▲1兆2,577億円)から赤字幅が拡大した。輸出金額は前期比+3.0%であった一方、原油高などを背景とした輸入価格の上昇により、輸入金額は同+9.4%となった。数量面から見ても、輸出数量が同+1.4%であったのに対し、輸入数量は同+2.6%と、ワクチン調達などによって押し上げられたことで輸出を上回った。これを受け、2022年1-3月期の実質GDP成長率における外需寄与度はマイナスに転じるとみている。

図表1：貿易統計の概況

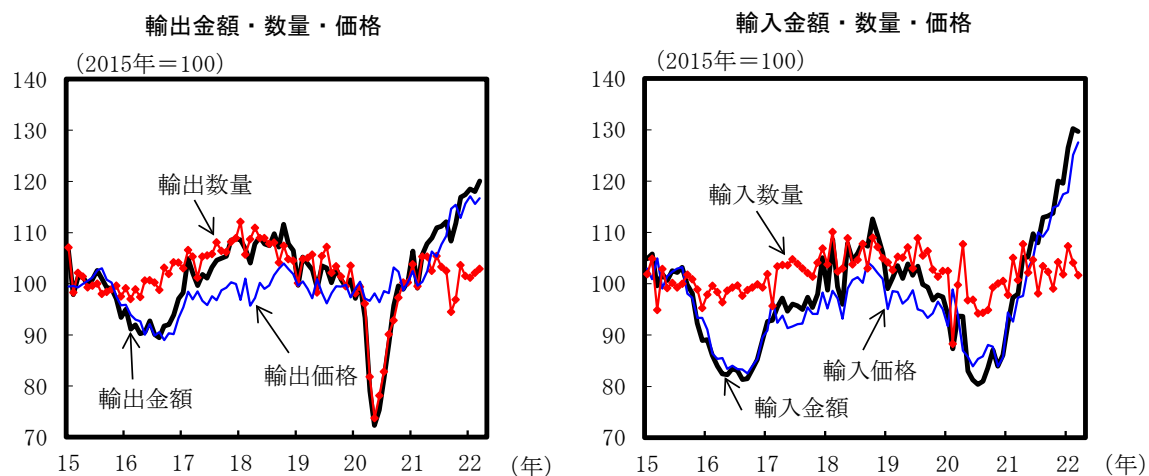
		2021年						2022年		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
原系列 前年比 %	輸出金額	37.0	26.2	13.0	9.4	20.5	17.5	9.6	19.1	14.7
	コンセンサス									17.3
	DIRエコノミスト予想									18.3
	輸入金額	28.1	44.7	38.4	26.8	43.8	41.2	38.8	34.1	31.2
	輸出数量	25.2	13.7	3.2	▲2.6	4.7	2.0	▲4.0	2.7	▲1.5
	価格	9.5	11.0	9.5	12.3	15.1	15.2	14.1	15.9	16.4
	輸入数量	2.0	14.5	7.5	▲3.0	6.1	1.0	4.8	▲0.9	0.0
価格	25.7	26.4	28.8	30.8	35.6	39.8	32.4	35.2	31.2	
	貿易収支(億円)	4,345	▲6,534	▲6,369	▲750	▲9,569	▲5,889	▲21,994	▲6,697	▲4,124
季節 調整値 前月比 %	輸出金額	0.2	0.8	▲3.4	3.2	4.5	0.4	0.9	▲0.4	1.7
	数量	▲2.0	▲0.8	▲7.8	2.5	6.9	▲2.0	▲0.3	0.9	0.8
	価格	2.3	1.6	4.8	0.7	▲2.2	2.5	1.2	▲1.3	0.9
	輸入金額	▲1.6	4.6	0.2	0.5	5.5	▲0.4	5.8	3.0	▲0.5
	数量	▲6.3	5.4	▲1.1	▲3.2	5.2	▲2.3	5.4	▲3.0	▲2.4
	価格	4.9	▲0.8	1.3	3.8	0.3	1.9	0.4	6.1	2.0
	貿易収支(億円)	▲394	▲3,083	▲5,642	▲3,783	▲4,689	▲4,105	▲7,921	▲10,666	▲8,998
	税関長公示レート	110.55	109.89	109.87	111.42	113.95	113.95	114.82	114.84	115.86

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

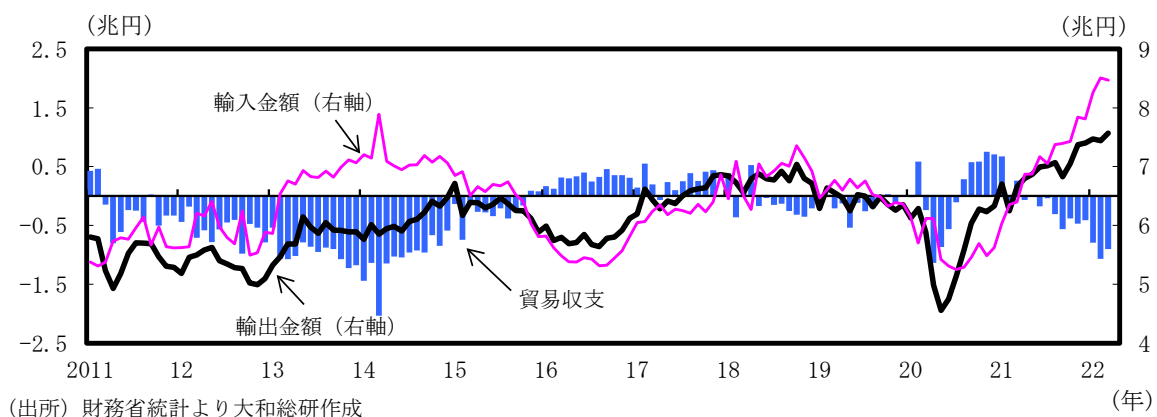
(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表 2 : 輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格 (季節調整値)



図表 3 : 輸出、輸入、貿易収支 (季節調整値)



【輸出数量】 欧米向けが急増も中国向けが足を引っ張る

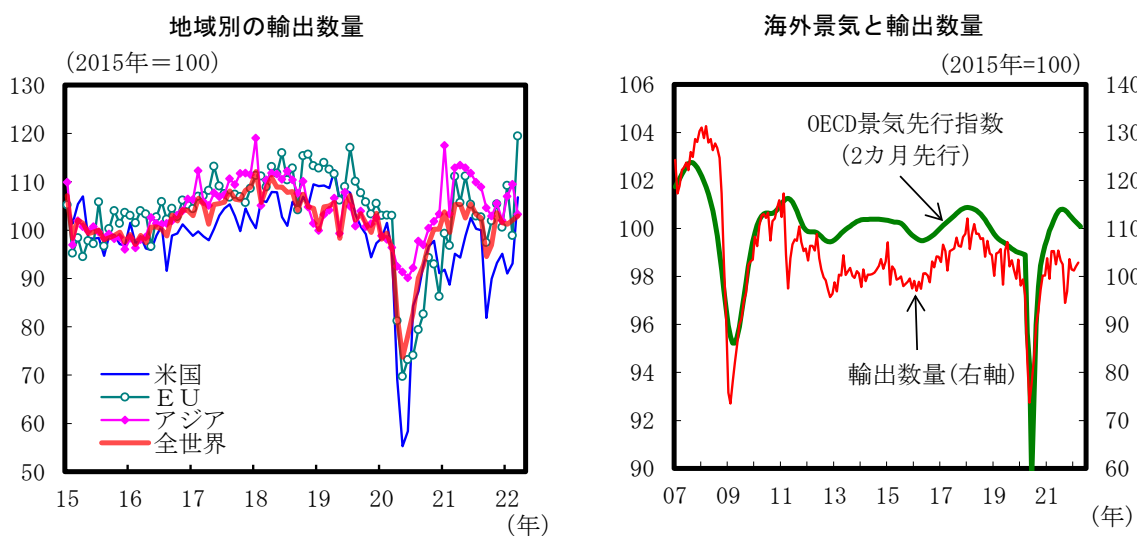
3月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+0.8%と小幅ながら2カ月連続で増加した。米国向け（同+14.7%）やEU向け（同+20.8%）が急増した一方、アジア向け（同▲5.7%）は減少に転じた。

米国向けは2カ月連続で増加した。前月に増加していた電算機類の同部分品や原動機などが当月も全体を押し上げた。また自動車の部分品も全体を大きく押し上げた。2月はカナダでのデモによって米国との国境の橋が一時的に封鎖され、米国やカナダの自動車工場の稼働が停止した影響で自動車部品への需要が減少したが、3月はその反動が表れたとみられる。他方、自動車は3カ月連続で減少した。

EU向けは2カ月ぶりに増加した。前月の大幅減からの反動に加え、主力品目の輸出が増加した。最も寄与の大きかった自動車は、依然として水準が低いため前年比で見ればマイナスだが、前月比では大幅に増加した。また自動車の部分品や原動機といった自動車関連財、電算機類の部分品、プラスチックなどの中間財も増加した。さらに、半導体等製造装置の輸出も急増し過去最高水準を記録した。世界の半導体シェアの大部分は台湾が占めているが、地政学リスクなどを考慮し、企業がサプライチェーンの分散化を進める動きが表れている可能性がある。

アジア向けは3カ月ぶりに減少した。中国向けの自動車や同部分品、集積回路（IC）、半導体等製造装置、非鉄金属といった主力品目が軒並み減少し、全体を大きく押し下げた。他方、その他のアジア向けでは半導体等製造装置などが増加し、アジア向け輸出全体で見た減少幅を緩和した。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注1) OECD景気先行指数（CLI）はOECD諸国とBRICsなど非加盟6カ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

【見通し】高インフレ、ウクライナ危機、中国の感染拡大が輸出の伸びを阻害

先行きの輸出数量は足踏みが継続するとみている。欧米では感染状況が改善しつつある一方、中国では新規感染者数の増加が続いている。また欧米では高インフレやウクライナ危機に対する懸念が強まるなど、いずれの地域も不安材料を抱えており、日本からの輸出が伸びにくい状況が続くだろう。ウクライナ危機については、日本からロシア向けの輸出額が小さいことから、輸出への直接的な影響は小さいとみている。むしろ、エネルギー品目や鉄鋼、パラジウムといったロシアへの依存度が高い重要品目の輸入が減少し、国内の基幹産業のサプライチェーンに間接的な影響が及ぶ可能性を注視すべきだろう¹。また、足元では円安が急速に進んでいる一方で輸出数量の伸びが鈍い。円安による輸出促進効果が低下しているとみられることから、一段と円安が進んだとしても輸出数量が急増する可能性は低いだろう。

輸出の先行きを地域別に見ると、米国向けは緩やかな増加基調を辿ったのち、高インフレを背景に下振れするとみている。足元の米国の経済指標は概ね堅調であり、需要の旺盛さやそれに対応した企業の生産活動が日本からの輸出を呼び込むだろう。他方、高インフレの継続に伴ってこうした状況は悪化するとみられる。実質所得の減少による消費意欲の減退や、FRBの利上げによる企業の設備投資マインドの悪化など、対米輸出の減少要因が徐々に顕在化するだろう。

欧州向けは横ばい圏で推移するとみている。欧州全体で見た新規感染者数は3月に増加していたものの、4月は減少に転じており、コロナ禍で積み上がった過剰貯蓄を原資とした消費機会の増加が期待される。他方、ウクライナ危機が対欧輸出の重石となるだろう。対欧輸出では資本財を中心とする一般機械の割合が高いが、ウクライナ危機を背景に企業が慎重姿勢を強める中、設備投資を手控える動きによって日本からの輸出が抑制されるとみられる。

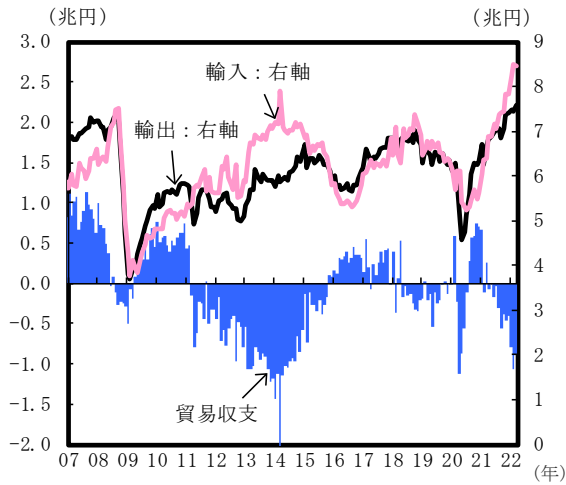
中国向けは緩やかな減少基調を辿るとみている。対中輸出の柱である中間財、資本財の先行きはいずれも明るくない。中間財については、感染拡大によって物流や生産活動にブレーキがかかることで、需要は上向きにくくなるだろう。資本財については、感染拡大前の1月～2月の固定資産投資が予想を上回る好調となったが²、足元では感染拡大を背景に工場の稼働停止が相次いでいる。実際に3月の鉱工業生産（前年比）は前月から低下しており、都市封鎖（ロックダウン）などの影響が表れている。感染拡大が長引き、工場等の稼働停止のリスクが強まる中では、企業が積極的な設備投資に踏み切るとは考えにくいだろう。

¹ 詳細はリサーチ本部「[ウクライナ問題に関する緊急レポート](#)」（2022年3月18日、大和総研レポート）を参照。

² 詳細は齋藤尚登「[中国経済、相次ぐロックダウンに広がる暗雲](#)」（2022年3月22日、大和総研レポート）を参照。

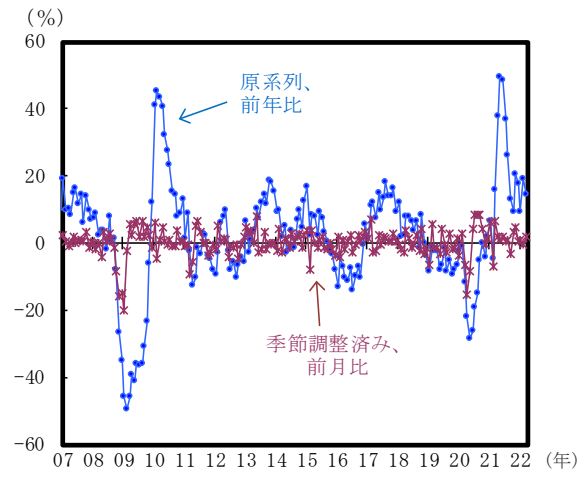
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

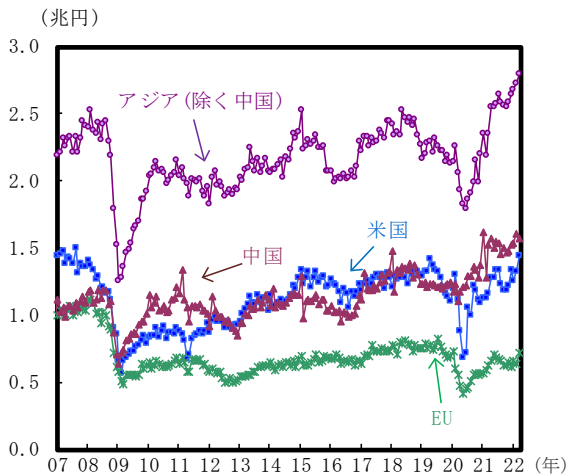


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

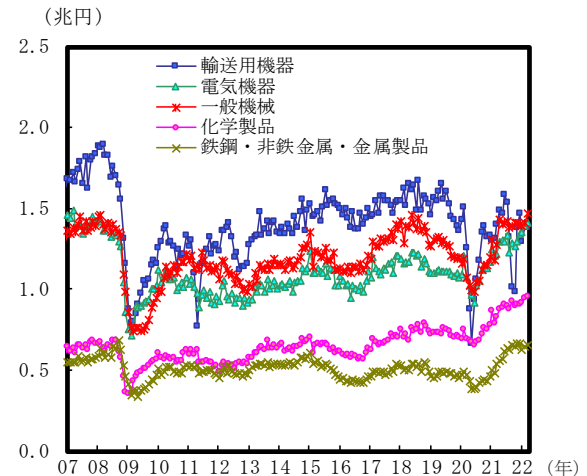


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

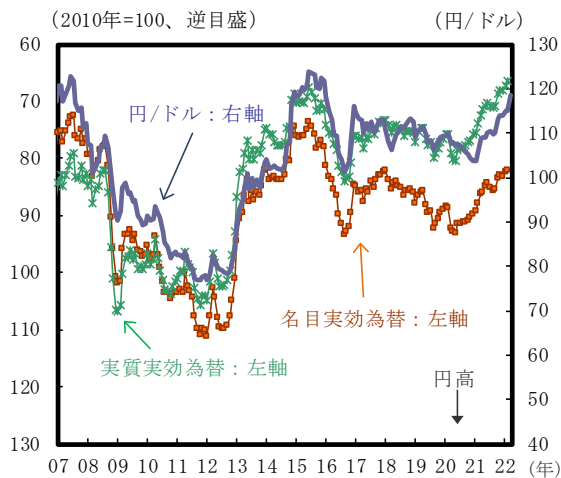


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

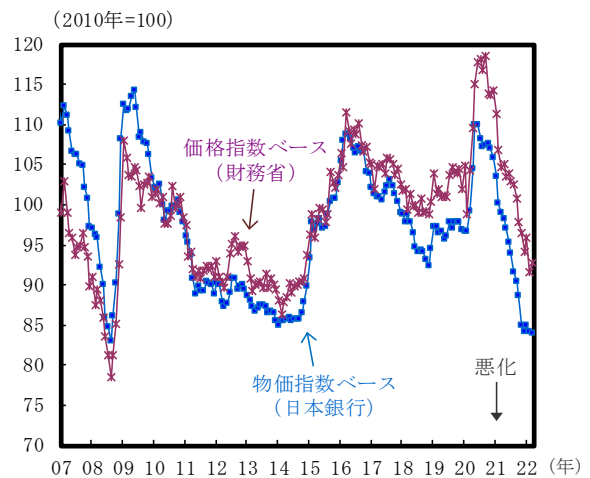


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2021/10	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	9.4	20.5	17.5	9.6	19.1	14.7	100.0	14.7
食料品	17.2	18.5	21.3	2.2	18.3	6.3	1.1	0.1
原料品	18.5	26.1	12.1	▲0.6	13.6	5.3	1.8	0.1
鉱物性燃料	210.0	166.4	84.2	111.2	139.3	90.5	1.9	1.0
化学製品	18.0	20.2	15.6	5.8	19.8	15.7	12.2	1.9
原料別製品	37.2	44.4	35.5	20.0	31.1	21.4	12.2	2.5
鉄鋼	80.1	87.7	75.1	47.0	45.5	38.8	4.9	1.6
非鉄金属	20.5	27.7	26.1	18.0	32.5	8.5	2.4	0.2
金属製品	13.0	11.2	6.0	▲8.3	13.7	8.7	1.5	0.1
一般機械	22.9	22.6	17.6	7.1	19.7	15.8	20.5	3.2
電気機器	10.5	14.3	15.0	8.4	16.0	15.6	17.6	2.7
半導体等電子部品	15.1	20.8	25.9	14.0	21.4	16.0	5.3	0.8
I C	13.3	20.3	26.9	15.0	23.4	16.4	3.5	0.6
映像機器	▲20.4	▲10.5	▲8.4	91.7	77.4			
映像記録・再生機器	▲23.0	▲11.5	▲8.1	8.9	1.3	▲0.9	0.3	▲0.0
音響・映像機器の部分品	20.6	7.2	2.9	▲9.3	8.7	13.0	0.2	0.0
電気回路等の機器	10.9	10.0	10.1	1.4	11.8	10.5	2.4	0.3
輸送用機器	▲28.7	4.3	10.2	▲0.5	4.3	▲1.2	18.7	▲0.3
自動車	▲36.7	4.1	17.6	▲1.0	8.3	▲5.2	11.9	▲0.7
自動車の部分品	▲7.0	0.7	▲0.3	3.6	3.2	11.8	4.2	0.5
その他	17.8	29.5	16.6	18.2	27.8	27.1	14.1	3.5
科学光学機器	14.6	26.8	14.1	▲2.4	6.2	0.5	2.4	0.0

米国向け輸出金額 内訳								
	2021/10	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	0.3	10.0	22.1	11.5	16.0	23.8	100.0	23.8
食料品	58.1	18.9	48.8	19.7	27.1	63.2	1.2	0.6
原料品	42.5	6.7	21.9	▲16.2	▲39.3	3.4	0.8	0.0
鉱物性燃料	693.6	739.5	100.4	559.9	2709.1	1007.5	0.5	0.6
化学製品	28.6	26.3	13.5	25.4	12.0	67.1	8.6	4.3
原料別製品	40.0	28.1	36.0	8.8	18.8	39.8	7.4	2.6
鉄鋼	104.8	70.6	121.6	38.1	19.1	91.8	1.5	0.9
非鉄金属	83.8	52.5	74.2	45.6	47.9	21.6	0.8	0.2
金属製品	11.8	0.2	▲1.2	▲24.8	6.6	22.9	1.7	0.4
一般機械	29.7	20.4	35.0	29.2	27.1	37.2	27.1	9.1
電気機器	17.0	21.8	26.8	12.3	10.9	25.9	15.8	4.0
半導体等電子部品	26.2	21.9	24.9	17.5	31.2	3.4	1.4	0.1
I C	12.6	22.3	12.9	14.9	42.5	▲4.6	0.6	▲0.0
映像機器	▲15.6	▲12.2	0.6	19.1	15.9			
映像記録・再生機器	▲24.6	▲14.3	▲5.8	16.1	▲0.7	21.9	0.6	0.1
音響・映像機器の部分品	41.8	74.2	10.1	▲32.2	8.3	31.4	0.2	0.1
電気回路等の機器	13.2	13.1	13.4	▲2.8	▲7.0	2.1	1.4	0.0
輸送用機器	▲39.1	▲8.7	10.4	▲2.3	10.1	▲5.4	26.0	▲1.8
自動車	▲46.4	▲11.5	11.9	▲0.2	16.2	▲16.7	17.9	▲4.4
自動車の部分品	0.8	13.4	12.1	▲1.2	▲1.4	41.7	6.6	2.4
その他	22.9	24.7	25.7	9.9	14.0	40.5	12.7	4.5
科学光学機器	29.3	17.8	35.9	19.3	16.1	20.3	2.5	0.5

EU向け輸出金額 内訳								
	2021/10	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	12.1	16.4	9.7	16.1	8.8	16.8	100.0	16.8
食料品	50.2	47.7	41.8	49.9	4.8	46.2	0.7	0.2
原料品	10.6	46.9	11.7	31.5	28.6	22.1	1.1	0.2
鉱物性燃料	957.7	55.0	13.3	0.2	32.7	170.3	0.4	0.3
化学製品	27.6	19.2	9.0	11.5	6.1	23.7	12.3	2.7
原料別製品	45.9	42.0	24.5	43.9	39.6	34.1	8.2	2.4
鉄鋼	192.2	140.1	162.1	203.8	176.9	66.5	2.0	0.9
非鉄金属	13.0	46.1	18.6	93.2	9.0	17.2	1.0	0.2
金属製品	17.5	19.8	▲11.5	▲15.5	3.8	14.4	1.4	0.2
一般機械	25.8	18.0	9.2	16.6	21.7	31.6	26.1	7.3
電気機器	16.2	5.8	▲5.6	11.8	2.8	6.1	16.8	1.1
半導体等電子部品	7.1	13.4	15.4	15.0	14.1	14.5	2.2	0.3
I C	▲0.6	9.0	14.4	10.1	31.4	21.8	1.0	0.2
映像機器	▲24.7	▲11.8	▲33.9	11.5	12.4			
映像記録・再生機器	▲21.1	▲11.4	▲33.3	1.5	9.3	▲24.3	0.6	▲0.2
音響・映像機器の部分品	▲11.4	55.7	11.2	7.4	▲10.1	11.5	0.2	0.0
電気回路等の機器	43.2	24.8	3.3	16.7	23.2	15.3	1.7	0.3
輸送用機器	▲26.0	3.0	12.7	▲6.5	▲17.5	▲1.0	20.9	▲0.2
自動車	▲34.2	17.9	50.0	▲12.4	▲24.0	▲19.0	9.7	▲2.7
自動車の部分品	▲21.5	▲36.4	▲39.4	▲9.4	▲13.1	▲3.0	5.7	▲0.2
その他	20.0	35.3	19.5	49.8	28.4	19.9	13.5	2.6
科学光学機器	35.7	40.3	9.2	40.3	25.7	36.9	4.4	1.4

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2021/10	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	15.0	24.7	16.6	6.3	25.2	12.4	100.0	12.4
食料品	10.9	18.7	14.9	▲4.6	17.7	▲4.4	1.3	▲0.1
原料品	17.8	27.5	10.9	▲0.6	19.9	3.9	2.6	0.1
鉱物性燃料	125.3	128.7	27.8	49.9	89.8	64.4	2.3	1.0
化学製品	15.5	19.8	14.3	0.6	23.7	9.3	15.4	1.5
原料別製品	35.6	45.6	35.9	17.5	34.8	16.3	14.7	2.3
鉄鋼	76.4	92.2	72.2	39.2	45.8	34.3	6.2	1.8
非鉄金属	20.5	26.0	24.8	15.8	37.8	2.7	3.5	0.1
金属製品	17.7	14.5	11.2	▲3.4	17.6	5.1	1.6	0.1
一般機械	19.9	23.6	12.9	▲4.7	18.1	6.4	19.2	1.3
電気機器	9.4	14.4	16.0	7.2	19.8	15.7	21.4	3.3
半導体等電子部品	14.8	20.7	26.0	13.7	21.2	16.5	8.5	1.4
I C	13.5	20.3	27.6	15.1	22.6	16.9	5.9	1.0
映像機器	▲16.1	▲1.3	4.3	224.1	219.6			
映像記録・再生機器	▲17.8	▲2.4	10.0	8.1	1.2	0.1	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	25.2	▲13.1	▲7.8	▲12.5	0.6	▲3.0	0.3	▲0.0
電気回路等の機器	9.6	9.1	10.6	1.0	13.4	10.5	3.2	0.3
輸送用機器	▲23.2	8.2	5.3	1.4	17.7	1.3	7.6	0.1
自動車	▲35.4	3.4	17.3	▲5.0	13.7	0.8	4.1	0.0
自動車の部分品	▲4.5	3.5	6.3	9.7	11.7	7.6	2.8	0.2
その他	16.4	33.4	15.8	14.6	34.9	19.9	15.5	2.9
科学光学機器	6.7	25.6	10.8	▲15.9	▲0.6	▲12.5	2.5	▲0.4

中国向け輸出金額 内訳								
	2021/10	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	9.6	16.0	10.8	▲5.4	25.8	2.9	100.0	2.9
食料品	40.1	25.2	16.2	3.6	42.5	20.9	1.1	0.2
原料品	48.9	42.3	4.3	7.1	67.9	▲5.1	2.6	▲0.1
鉱物性燃料	▲1.8	39.2	25.4	▲51.4	▲25.1	2.2	0.7	0.0
化学製品	18.6	22.1	15.1	▲9.5	40.9	4.3	17.5	0.7
原料別製品	26.0	26.8	23.1	▲3.0	39.0	4.3	11.9	0.5
鉄鋼	32.4	47.3	48.8	3.8	58.7	26.1	3.9	0.8
非鉄金属	41.6	25.2	22.9	▲2.6	30.6	▲19.4	3.1	▲0.8
金属製品	16.7	14.0	10.0	▲5.6	16.6	4.3	1.7	0.1
一般機械	12.9	22.7	5.6	▲11.1	20.2	▲4.6	22.6	▲1.1
電気機器	13.0	14.3	17.0	7.0	27.4	16.8	22.5	3.3
半導体等電子部品	27.0	25.3	28.7	18.0	24.4	10.5	6.2	0.6
I C	30.6	31.4	32.3	24.1	27.0	5.1	4.0	0.2
映像機器	▲31.6	▲9.4	▲4.8	269.7	320.2			
映像記録・再生機器	▲31.6	▲10.6	2.3	▲0.9	▲16.3	▲12.8	0.3	▲0.1
音響・映像機器の部分品	28.5	▲38.8	▲22.3	▲29.6	▲6.6	▲11.5	0.3	▲0.0
電気回路等の機器	4.0	5.0	13.0	▲1.0	24.5	15.0	3.8	0.5
輸送用機器	▲33.8	▲8.9	14.9	▲3.5	6.6	▲7.0	8.7	▲0.7
自動車	▲46.8	▲8.3	30.6	▲9.0	7.8	▲8.4	5.2	▲0.5
自動車の部分品	▲15.1	▲10.6	▲4.6	6.8	3.1	▲5.5	3.3	▲0.2
その他	2.5	8.0	▲6.0	▲12.8	13.3	0.4	12.4	0.0
科学光学機器	5.6	14.3	0.0	▲25.5	▲1.1	▲15.4	3.1	▲0.6

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成